

立命館大学法学部長 祝辞

立命館大学法学部に入学された新入生の皆さん。

ご入学おめでとうございます。わたくしたち法学部教職員一同、皆さんのご入学を心より歓迎いたします。

立命館大学は、1900年京都法政学校として、学問の街京都に誕生し、法学部は、今年2020年に120年を迎えます。こうした節目の年に入学された皆さんに、コロナウィルス感染症拡大防止のため直接の機会を持つことはできませんでしたが、書面にて応援のメッセージを贈ります。

立命館大学の「立命」の名は『孟子』に由来し、「学問を通じて、自らの人生を切り拓く修養の場」という意味を持っています。皆さんにはこの立命館大学で学び、思考することによって、自らの成長を勝ち取り、人生を切り拓いてほしいと願っています。

「法の理念は正義であり 法の目的は平和である だが法の実践は社会悪とたたかう闘争である」

これは、立命館大学名誉総長であり、民法学者でもあった、末川博先生の言葉です。「法」は暴力を使うことなく、紛争を解決するために存在しますが、法があれば、自動的に正義や平和が訪れるわけではないことがこの言葉には込められています。法の実践・運用には、常に何が真実であるのか、何が正義であるのかを明らかにし、それを破壊しようとする動きに対抗するための努力が常に求められるのです。

末川博先生は、「未来を信じ、未来に生きる」という言葉も残しています。この言葉には、「未来を信じるには、社会を構想できる科学的な思考力が、未来を生きるには、他者と共同できる社会的な人間力が求められる。次代を担う若い皆さんに未来を信じることのできる思考力、未来を生きることのできる人間力をもってほしい」という末川博先生の思いが込められているのです。

新入生のみなさん。

社会や人とかかわる経験をしてください。

人間は、学びに参加し、学びを組み立て、表現し、見直しをすることを通じてのみ、自分の殻を破り、成長を遂げることができます。経験から学ぶことは皆さんの大きな力となります。今、この瞬間から、学びに対して真摯に向き合い、心と思考を広げていくことで、皆さんの未来は無限に広がります

そして、グローバルな視点をもって法を学んでください。

法学部では、様々な場面におけるあるべき制度やルールを、過去の歴史や他国の経験も参考にしながら、学んでいきます。法学部で学ぶ法律の多くは日本の法律ですが、常にグローバルな視点をもつことが、グローバル化した日本のなかにおいて、必ず皆さんの視野を広げ、そして未来を切り拓く礎となります。

キャンパス内、そしてキャンパスを飛び越え、地域、日本、そして世界に向けて広げた視野と経験をもつとともに、皆さんには、単に机の上だけではなく、社会の動き、人々の動き、喜怒哀楽に関心を持ち、人々の感情が、動きが、社会を動かし、ルールを創ることを学んでほしいと思います。何事にも失敗を恐れずチャレンジし、視野と経験を広げてください。

新入生の皆さん。

「なぜ」と問う心を大切にしてください。こうした学びの姿勢で、社会とかかわり、社会の新しい扉を開き、社会を前進させていってください。

今ここ京都、立命館のキャンパスで皆さんが新しい時代を創る担い手としての力を養っていかれることをわたくしたち法学部教職員一同衷心より願っています。立命館大学を余すところなく活用してください。

ようこそ立命館大学へ！ 皆さんのご入学を心よりお祝い申し上げます。

2020年3月 立命館大学法学部長
徳川 信治

